



日産のCSR 重点8分野

## 社会貢献 — グローバル社会の一員として

日産は「人々の生活を豊かに」というビジョンのもと、魅力ある製品やサービスを世界中に提供すると同時に、持続可能な社会の実現に向け、企業市民としての役割を果たしていきたいと願っています。

日産はグローバル社会の一員として、より良い社会の創造に寄与するさまざまな社会貢献活動に取り組んでいます。

具体的には「人道支援」「教育への支援」「環境への配慮」の3つを柱に、

自動車メーカーならではの社会貢献活動をグローバルに、そして地域とともに展開しています。

社員の社会参加意識を育てながら、NPO・NGOなどの外部組織とも連携し、

各国・地域の実情やニーズに合わせた活動を行っています。

### 社会貢献活動における3つの重点分野

#### 1. 人道支援

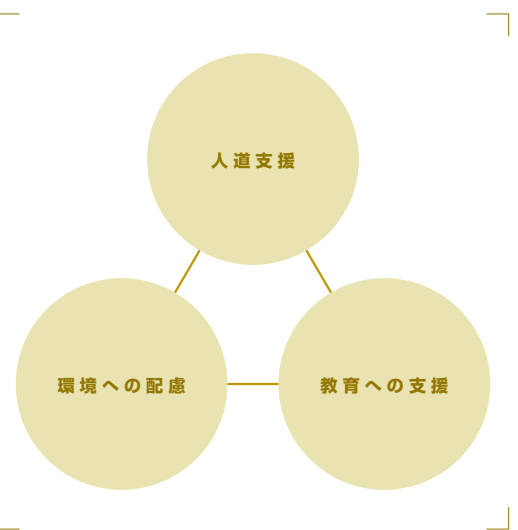
日産は、世界各地で発生した大規模自然災害の被災地に対する支援活動を行っています。グローバルに広がる事業所やグループ企業のネットワークを生かしながら、それぞれの国や地域の実情に配慮して、効果的かつ実行力のある活動を展開しています。

#### 2. 環境への配慮

日産は環境理念「人とクルマと自然の共生」を掲げ、多岐にわたる環境負荷削減に向けた取り組みを継続的に行っています。社会貢献活動においても、「環境への配慮」を重点分野と定め、環境意識の醸成、啓発活動を中心とした各種プログラムを実施しています。

#### 3. 教育への支援

日産は「次世代育成」という観点を重んじて社会貢献活動を行っています。未来を担う次世代の子供たち、若者の心を豊かに育む活動を心がけ、教育機関などとも連携しながら、実りある活動を継続的に実施しています。



■ グローバル企業としての取り組み

**日産らしい社会貢献活動**

社会貢献活動にあたっては、活動に携わる部署および役員と議論を重ね、世界各地の日産の事業所とグローバルでビジョンを共有しながら、それぞれの国や地域の実情、ニーズに合った活動を展開しています。

各事業所では、近隣地域に対して、雇用の創出など経済的な貢献はもとより、さまざまな活動を通して地域コミュニティとの強固な関係づくりに努めています。国や地域を越えて取り組むべき課題には、グローバルな考え方と各地域に最適な活動とのバランスをとりながら、日産らしい貢献ができるよう心がけています。



社会貢献の取り組みに関する詳しい情報は、下記のウェブサイトに記載しています。併せてご覧ください。

<http://www.nissan-global.com/JP/CITIZENSHIP/>

**重要な考え方**

日産は社会貢献活動において、以下のような考え方が重要と考えています。

**1. 社員の自発的な参加意識を育てる**

社員一人ひとりの社会貢献活動を積極的に支援し、より多くの社員が企業市民意識を持つことにより、大きな社会貢献の輪を育んでいきます。

**2. 会社の強みや特性を生かした活動を考える**

金銭的な支援だけでなく、ノウハウや日産の製品・関連施設の活用など、日産が本業で培った資源を十分に生かすことによって、持続的な活動を行うことを目指しています。

**3. 専門性のあるNPOやNGOとの協働**

日産の社会貢献活動をより実りあるものとするために、NPO（民間非営利組織）やNGO（非政府組織）と連携した協働プログラムの可能性を探求していきます。

**社員が参加する社会貢献活動**

社会貢献活動は、社員一人ひとりの積極的な参加が重要な力の源になっています。イントラネット「WIN」を使って社内コミュニケーションを積極的に行い、世界各地の社会貢献活動の情報を広く知らせるだけでなく、ボランティア参加型の活動を多く紹介し、社会貢献活動の参加経験人数を増やしていくことによって、より多くの社員が良き企業市民の意識を持つようサポートしています。

日本では、社員が参加する市民活動を会社が資金面で支援する「日産ボランティア活動資金支援制度」を有しており、2010年度は15件で180万円相当の支援を実施しました。米国では、同様のマッチングギフト制度を導入しています。また、社員向け啓発活動の一環として、NGO（ワールド・ビジョン・ジャパン、シャント国際ボランティア会、シャプラニール、オックスファム・ジャパン）の協力のもと、社員向けフェアトレード商品販売会やリサイクルブックバザー、災害支援報告会、映画上映会などを実施しました。

## ■ 人道支援に関する取り組み

## 大規模災害地域への人道支援

日産は、世界各地で発生した大規模自然災害の被災地に対する支援を行いました。2010年1月に発生したハイチ大地震の際には、北米日産会社が日産グループを代表して対応にあたり、10万ドルを超える支援を迅速に行いました。さらに、ピックアップトラック30台をハイチで活動する国連世界食糧計画に寄贈、これらの車両が復旧作業において、食糧、生活必需品、救援物資の運搬に役立てられました。

4月に発生した中国・青海省地震では、日産(中国)投資有限公司が中国赤十字に50万人民元(約680万円)を寄付。日産の合併パートナーである東風汽車有限公司でも約4,000万円相当の物資を支援したほか、救援活動支援のため、四輪駆動車「エクストレイル」6台を提供しました。

8月、パキスタンで大規模な洪水が発生した際には、日産自動車株式会社が300万円をNGOジャパン・プラットフォームに寄付し、被災した地域の復興支援のために活用されました。

日本国内においては、6月に宮崎県で発生した口蹄疫により被害を受けた地域への支援として、社会福祉法人宮崎県共同募金会に対して100万円を寄付しました。

災害支援については、初動支援に加え、長期的視野に基づいた活動にも力を入れています。2011年3月にはフリート・フォーラムとのパートナーシップを締結しました。フリート・フォーラムは、傘下のNGOに環境面や安全面に配慮した車両運用を行うように指導している非営利機関です。日産は電気自動車「日産リーフ」を1年間にわたって提供し、環境に優しい援助活動を支援します。今後もさらなる協働分野の検討を続けます。(東日本大震災の被災地支援については、10ページをご覧ください)

## NGOやNPOとの協働

北米日産会社(NNA)では、NPOセカンド・ハーベスト・フード・バンクへの支援や、アメリカン・インディアン・カレッジ基金、ペンシル財団、ハーベスリバー・ウォーター・シェッド・アソシエーション、ユニバーサル テクニカル インスティテュート財団への寄付など、教育、環境の分野を中心に支援を行っています。また、国際NGOのハビタット・フォー・ヒューマニティとの協働で、災害や貧困などの理由により家を持たない人々に住まいを安価で提供する支援活動を行っています。2010年度も100万ドルの資金提供を行い、米国およびカナダに10軒の住居を建設しました。さらに、建築資材を運搬するためにピックアップトラック「タイタン」10台を寄付。これまでに役員を含む延べ5,000名の日産社員がボランティアとして建設作業に参加し、住人となる人々とともに汗を流し、家を持つことの喜びを分かち合いました。これらの活動が評価された結果、NNAは2010年11月に米国のファンドレイジング協会であるAFPから「今年の企業フィランソピスト賞」を受賞しました。

ハビタット・フォー・ヒューマニティとの活動はグローバルに広がり、豪州日産自動車株式会社、インド日産会社、タイ日産自動車会社、インドネシア日産自動車株式会社でも現地法人と連携しながらボランティア活動や車両寄贈活動を行っています。

## アジアにおける人道支援

中国の鄭州日産汽車有限公司では、2010年6月より、貧しい大学生や両親のいない子供たちへの支援活動を開始。社員からの募金も合わせ、毎年300万人民元(約3,900万円)以上、5年間で1,500万人民元(約1億9,500万円)以上に上る支援を計画しています。

また、日産(中国)投資有限公司でも、出稼ぎ労働者や移民の子供たちを支援するプログラムを開始しました。道徳・学力ともに素晴らしい成績を収めた生徒たちへ、合計5万人民元(約64万円)を奨学金として寄付。ほかにも、校舎の改装費用10万人民元(約130万円)を寄付したほか、3台のバスケットボール用ゴールとプロジェクター6台を寄贈しました。

インドネシア日産自動車株式会社では、2010年10月にインドネシアで発生したムラビ山の噴火で被害に遭った人々の避難や物資の運搬のために、「フロンティア」1台を贈呈。ジョグジャカルタ近郊の避難所を訪問し、生活必需品や食糧品の配布も行いました。

## Messages from Our Stakeholders



ステークホルダーからのメッセージ

**日産とともに人々の生活を豊かにする地域貢献を**

ハビタット・フォー・ヒューマニティ・インターナショナル  
法人担当ディレクター

フレッド ブルーワー 氏



ハビタット・フォー・ヒューマニティ・ジャパン  
に関する詳しい情報は、  
下記のウェブサイトをご覧ください。

<http://www.habitatjp.org/>

私たちハビタットは、シンプル・安全・安価な住居の提供を通じてコミュニティの構築を支援する活動を行っています。日産には、社員による建設作業への参加や、資金・物資面でご協力いただいています。日産から提供された89台の「タイタン」は、米国、カナダ、タイ、ドミニカ共和国、ハイチでの活動に役立てられており、2010年末までの使用走行距離は500万マイルに達しました。

北米日産会社のほか、日産自動車株式会社、韓国日産株式会社、豪州日産自動車株式会社を合わせると、日産社員によるボランティア活動時間は累計で5万6,000時間、建築した住宅の数は107軒、2006年に始まった資金や車両の提供は総額500万ドル以上に上ります。今後とともに活動を継続し、「人々の生活を豊かに」という日産のビジョンの実現に協力したいと考えています。

## ■ 環境に対する取り組み

## ■ 次世代の環境意識育成を支援

日産は、クラシック音楽を中心とした文化・芸術の祭典「軽井沢八月祭2010」に協賛しました。このイベントは「環境に配慮したイベント運営」を目指しており、「人とクルマと自然の共生」という環境理念を掲げる日産と考え方が一致することから4年連続の協賛となりました。同イベントに関連して、軽井沢絵本の森美術館で「ニッサン童話と絵本のグランプリ作品展」を開催。童話の読み聞かせとサクソ四重奏によるミニコンサートなども行いました。

また、電気自動車「日産リーフ」の発売に合わせ、「日産ゼロ・エミッションサイト」において、持続可能なゼロ・エミッション社会の啓発を目的とした子供向けコンテンツ「我が家に電気自動車がやってきた!」を公開しています。ユニークなキャラクターが繰り広げる物語やクイズを通じて、現在の地球が直面する環境問題や走行中に排出ガスを出さない電気自動車のメリットを分かりやすく説明しています。

## ■ 日産財団の活動

日本の学術、文化の向上を目的に設立された日産科学振興財団では「社会の進歩のためのソリューションの創成」をテーマに、「環境研究」「認知科学研究」「科学・技術および環境教育」に重点を置いた助成事業を行いました。これまでの助成実績は累計約2,400件、67億円(2011年3月現在)に上ります。教育助成においては、将来を担う子供たちの科学や技術、環境問題などに対する興味と関心を高め、理解を促進するための教育助成プログラム「理科/環境教育助成」を設けています。2010年度は神奈川、栃木、福岡の各県合わせて23校に助成を行いました。2011年4月には公益法人認定を受け、名称を「日産財団」に変更。新たに活動地域をグローバルに広げ、人材育成を重点分野として教育支援活動を継続します。



「我が家に電気自動車がやってきた!」は、下記のウェブサイトに掲載しています。併せてご覧ください。

<http://www.nissan-zeroemission.com/JP/KIDS/>



日産財団の活動に関する詳しい情報は、下記のウェブサイトをご覧ください。

<http://www.nissan-zaidan.or.jp/>

■ 教育に対する取り組み

3つの出張授業

小学校高学年の児童を対象とした3つの出張授業「日産モノづくりキャラバン」「日産デザインわくわくスタジオ」「日産わくわくエコスクール」を2010年度も開講しました。

「日産モノづくりキャラバン」は、日産の製造業としてのノウハウを生かして子供たちに「モノづくりの楽しさ」を体験する機会を提供するためのプログラムです。

「日産デザインわくわくスタジオ」は、文部科学省が推進するキャリア教育プログラムの趣旨に沿って、日産が独自に企画した職業体験授業です。日産の現役カーデザイナーが、クルマの製造過程やデザインの仕事について紹介しています。

「日産わくわくエコスクール」は、NPO法人気象キャスターネットワークとの協働で行っている環境出張授業で、未来を担う子供たちの環境意識を高めることを目的としています。

2010年度はこの3つの出張授業に、2万1,000名を超える児童が参加しました。

ニッサン童話と絵本のグランプリ

日産では、財団法人大阪国際児童文学館とともに「ニッサン童話と絵本のグランプリ」を開催しています。本グランプリは、アマチュア作家による創作童話と絵本のコンテストで、子供たちに良質な童話や絵本を届けることを目的として、大賞作品を毎年出版するとともに、販売会社を通じて全国の公立図書館（約3,300）や幼稚園（約700園）に寄贈しています。さらに2010年度より、日産の海外事業拠点周辺の日本人学校・日本語補習校への寄贈も開始。これまでの累計寄贈冊数は、約17万6,000冊に上っています。

第27回となる2010年度は、全国から2,941編の応募が寄せられました。2010年5月と2011年3月には、日産グローバル本社ギャラリーにて、受賞作品を通して絵本の読み聞かせ効果を体感していただく「親子で一緒に童話体験」を開催しました。同ギャラリー内では、大賞作品を販売し、売り上げをシャンティ国際ボランティア会に寄付しています。

また、毎年春休みには、財団法人児童育成協会（こどもの城）との協働で、絵本にちなんだ展示や工作などを体験できるワークショップ「ニッサンゆかいな絵本と童話展」を開催しています。ワークショップでは、クルマの素材などを再利用し、日産社員や学生のボランティアが子供たちにモノづくりの楽しさを伝えています。

北米日産会社（NNA）では、就学前の子供たちに書籍を贈る、ガバナーズ・ブックス・フロム・バース基金（GBBF）の活動を支援しています。GBBFは幼児教育の振興を目的に、NNAが本社を構えるテネシー州で創設されました。2010年度は10万ドルの資金協力をを行い、30万冊以上の絵本提供に役立てられました。

■ 地域貢献への取り組み

日本における地域貢献活動

神奈川県内の事業所では毎月23日を「日産デー」とし、周辺地域の清掃活動を行っています。2009年11月からは、横浜に拠点を移したグローバル本社もこの活動に加わり、地域に貢献する環境活動の一環として取り組みながら、社員の環境意識の向上に努めています。

また、日産追浜工場では2010年12月、地域関係団体とともに第11回全国車いすマラソン「日産カップ追浜チャンピオンシップ2010」を開催しました。この大会は障がい者スポーツの普及と競技者の技術向上のほか、地域の活性化を目的とする車いす陸上競技の総合大会で、北京パラリンピックにも出場した土田和歌子さんを含む延べ約200名の選手が全国から参加し、日ごろの練習の成果を競いました。ロードレースでは、毎年約500名の日産社員および地域のボランティアがコース整理や給水の補助を行うなど、大会の運営に協力しています。この大会を記念して設立された社員による「太陽募金」では、毎年集まった寄付金を障がい者スポーツ振興のため、障がい者陸上競技団体等に寄付しています。

その他、厚木市にある日産テクニカルセンターでは、清掃活動や花の植栽など、地域に貢献する「NICE WAVE」活動を推進しています。

海外における地域貢献活動

韓国日産株式会社では2009年7月～2010年7月、ソウル市と共同で「グリーンギフトキャンペーン」を行い、障がいを持つ37名の学生に奨学金を贈呈しました。その他にも子供のための交通安全絵本の配布、大学の奨学金制度の支援、およびユニセフの活動支援を目的としたファンドレイジング撮影会などの地域貢献活動を積み重ねてきた結果、2010年9月、韓国で事業をしている企業で、社会的責任において継続的な努力と活動を行っている企業に与えられる「ソウル市CSR大賞」を受賞しました。

インドネシア日産自動車会社では2009年度から「Nissan Sahabat Anak Indonesia(インドネシアとともに)」という教育支援プログラムを開始し、主に小学校を訪問して文具や教材、コンピューターなどを寄贈しています。同様の支援は南アフリカ日産会社でも熱心に行われており、初等教育機関には理科・数学の授業向け資料や書籍、通学用のスクールバッグ(日産の販売店で使用した広告バナーを再利用)などを寄贈。高等教育機関には、自動車メーカーとしての強みを生かし、研究用に実際のエンジンを提供しています。日産車を活用した移動眼科診療車「モバイルアイクリニック」も引き続き活躍し、地域の子供たちの健康維持に貢献しています。



「日産カップ追浜チャンピオンシップ」に関する詳しい情報は、下記のウェブサイトをご覧ください。  
<http://nissan-cup.com/>

Area Leaders' Messages

日産のCSR 重点8分野 オーナーメッセージ

東日本大震災に継続的な支援を届ける

グローバルコミュニケーション・CSR本部  
CSR部  
主担  
菰田 雄士



未曾有の災害が2010年度末に日本で発生し、世界各国の日産社員、関係会社社員から多くの支援の声が届きました。地震発生から今日に至るまで、CSR部を中心に数多くの支援を直接的・間接的に被災地に届けてきました。グローバル日産の社員から寄せられた善意の総計は、5月末時点で1億円を超える見込みです。特にいわき工場および周辺地域では、社員有志によるボランティア活動なども行われています。単発的な支援に終わることのないよう、NGO各位とも連携しながら、今後もCSR部が中心となって検討し、適切かつ継続的な、日産らしい支援をお届けしていきます。